

「落花生」生育情報（第1報）

～ 基本技術を励行して収量増加！ ～

平成27年7月21日

千葉県農林水産部

生産振興課

1 生育状況

今年の梅雨入りは、平年並みの6月8日頃で、は種時期の5月下旬から6月上旬は、気温はやや高く、降水量は少ない状況でした。

各品種とも出芽は良好であり、7月10日現在の生育状況は「千葉半立」がやや良、「ナカテユタカ」及び「おおまさり」は良です。

作況調査成績（7月10日調査）

品種名	年次	は種日	開花期	最長分枝長 (cm)	地上部乾物重 (g/m ²)	生育状況
千葉半立	本年	5/26	7/6	15.5	79.5	やや良
	平年	5/26	7/6	14.7	68.4	
	対比	0	0	105%	116%	
ナカテユタカ	本年	5/28	7/1	15.3	94.0	良
	平年	5/28	7/5	13.5	66.3	
	対比	0	-4	113%	142%	
おおまさり	本年	5/22	6/29	26.3	105.3	良
	平年	5/29	7/5	19.8	58.1	
	対比	-7	-6	133%	181%	

* 平年値は「千葉半立」、「ナカテユタカ」平成20～26年（過去7年間）の調査データから最大・最小を除く平均

* 「おおまさり」は平成22年～26年（過去5年）の調査データの平均

* 対比は日数、または平年比

2 これからの管理のポイント

適期にマルチを除去しましょう！

開花期（ほ場の50%程度の株に1輪でも花が咲き始めた日）から7～10日後には、マルチフィルムを除去しましょう。

マルチフィルムを除去しないと、雨水やかん水した水が十分に浸透せず、収量と品質の低下につながります。

なお、「おおまさり」の場合、生育が旺盛なため、花の咲き始めにマルチフィルムを速やかに除去します。

中耕・培土と石灰施用で収量増加！

中耕・培土を行うと、子房柄が地中に侵入しやすくなり、収量を上げる効果があります。除草を兼ねて7月下旬までに実施しましょう。

また、石灰施用は莢実の充実を促し、不足すると空莢や未熟莢が増加しますので、培土時に石灰を施用しましょう。

石灰施用量の目安：苦土石灰（または消石灰）40～60kg/10a

「十分なかん水」で収量を確保しよう！

7月下旬～8月上旬は、落花生の子房柄が伸長して地中で莢ができる時期です。

この時期に干ばつ害を受けると、空莢が発生し、収量が大きく減少します。

朝から葉が閉じたままの株が見え始めた場合は、1回に30ミリ以上をかける「十分なかん水」を行いましょ。特にナカテユタカは干ばつ害を受けやすいので、週1回を目安に「かん水」しましょ。

病害虫の早期発見・早期防除を徹底しよう！

「褐斑病」

葉に円形の斑点ができる病気で、病状が進行すると落葉します。

本病は発生初期の薬剤防除効果が高いので、発生が見られたら早期に薬剤散布し、防除を徹底しましょ。

防除薬剤（使用法はラベルを確認してください）

発病初期に、下記薬剤のいずれかを散布する。

トップジンM水和剤 ベンレート水和剤 ダコニール 1000

「白絹病」

高温・多湿条件下で発生しやすく、地ぎわ部が侵され、白い菌糸が密生します。やがて、発育不良となり、枯死します。被害株は、すぐに抜き取り、表土と一緒に圃場から持ち出し、処分しましょ。また、フロンサイド粉剤を株元散布しましょ。

防除薬剤（使用法はラベルを確認してください）

薬剤名	使用時期（使用回数）	10aあたり使用量
フロンサイド粉剤	収穫45日前まで（1回）	20kg

「茎腐病」

茎の地ぎわ部が腐り、地上部がしおれ、やがて枯死する病気です。現在、登録されている農薬はありませんので、発生が認められたときは、被害株をすぐに抜き取り、表土と一緒に圃場から持ち出し、処分しましょ。

※白絹病・茎腐病は、連作を避け、他作物と輪作して、防除効果を高めましょ！